

人事・福利厚生もグローバルに

国境越えた統合が進む企業年金

5月下旬の1週間、英国のロンドンから列車で2時間程離れたブリistolを訪問した。

目的は、ブリistolで開催されたIBIS(International Benefits Information Service)会議に参加するためであった。この会議は、毎年欧州のいずれかの都市で行われ、45年の歴史がある。私も3年〜5年おきに参加して、海外の専門家と情報交換を行っている。

3日間の日程で年金医療などの企業福祉について意見交換する国際会議で、米国を中心に15カ国から140名程のコンサルタント、国際的な企業やサービス提供会社(保険会社やコンサルタント会社)の担当者が集まった。

海外の制度を知つて、どのような福利厚生制度を効率よく従業員に提供するか、という点に関心が深い。

ロンドンでは、アレクサンダー・バー(Alexander Beard)という国際的なファイナンシャルプランニングの会社のロンドン支店(本社は中部のチェスター)を訪ね、英国の年金制度改革の現状と背景、日本のファイナンシャルプランナーとの違いを調査した。会議の印象や英国事情を紹介する。

◆ 企業福祉とは、従業員をサポートする給与以外の企業が提供する福利厚生を表す。

◆ 欧米の大企業は、国をまたいで国際的な活動をしており、親会社(本社)、地域本社、国別会社に分かれ、社員も①現地採用社員②親会社・地域本社の社員③長期に海外勤務する社員の3つに分かれる。

◆ 国ごとに異なる年金医療などの福利厚生制度をどのように提供するかは課題である。国による

制度の違いを理解することが重要で、関係者が会議を通じて情報交換しているわけである。

◆ 会議のテーマは大きく分けて、①生産性の向上②年金制度③その他海外派遣者の保障などである。

◆ 生産性の向上では、従業員の良好な睡眠やストレスを減らすことが企業利益の向上につながる。

◆ 英国では、年金制度の大改革が行われている。公的年金は日本と同じ2階建てであり、1階は定額の基礎年金、2階は報酬比例年金で、厚生年金基金のモデルとなった適用除外制度があり、この2階部分は、同等の給付ができれば、企業年金で代替でき、加入しなくてもよいという制度である。

◆ 自動加入制度で、いったん全員加入する。2016年から予定されている制度改定により、公的年金は1階のみとなり分りやすくなる。同時に適用除外制度は廃止される。日本でも、

ウェストを測るそうだが、誰が行うのがあった。欧米の人には、強制的にウェストを測られるのが信じられないらしい。

◆ 会議の2日目、セッションの終了後に参加者全員で、夕食をとるためバ

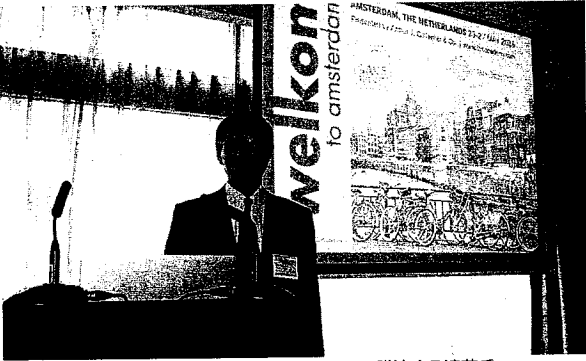
スで30分ほどのパリスという町にある紀元1世紀のローマ時代の遺跡で、世界遺産になっているローマンバスを見学し、そのカフェで食事をした。

◆ この町の名が英語のBATH(風呂)の語源であるという。浴槽やマッサージルームなどがあり、まさに映画の「テルマエロマエ」の世界であった。2000年もの間、今もこんなと温泉が湧き出ていて驚いた。

◆ 述べてきたが、日本は海外に人を派遣すると、3年〜5年すると日本に戻すし、派遣者も現地に根づくというより本社を見て仕事をしているように見える。

◆ 人事・福利厚生は各国内に任せて、規模の利益や本社と各国のオフィスの円滑なコミュニケーションがとられていないように思う。

◆ 今後、グローバルな人事・福利厚生施策が必要になるだろう。



ストレスチェックの義務化をテーマに講演する遠藤氏

の利益になるという発表があった。年金制度では、英国の年金改革と欧州の年金統合の発表があった。

◆ 英国では、年金制度の大改定が行われている。公的年金は日本と同じ2階建てであり、1階は定額の基礎年金、2階は報酬比例年金で、厚生年金基金のモデルとなった適用除外制度があり、この2階部分は、同等の給付ができれば、企業年金で代替でき、加入しなくてもよいという制度である。

◆ 自動加入制度で、いったん全員加入する。2016年から予定されている制度改定により、公的年金は1階のみとなり分りやすくなる。同時に適用除外制度は廃止される。日本でも、

ウェストを測るそうだが、誰が行うのがあった。欧米の人には、強制的にウェストを測られるのが信じられないらしい。

◆ 会議の2日目、セッションの終了後に参加者全員で、夕食をとるためバ

スで30分ほどのパリスという町にある紀元1世紀のローマ時代の遺跡で、世界遺産になっているローマンバスを見学し、そのカフェで食事をした。

◆ この町の名が英語のBATH(風呂)の語源であるという。浴槽やマッサージルームなどがあり、まさに映画の「テルマエロマエ」の世界であった。2000年もの間、今もこんなと温泉が湧き出ていて驚いた。

◆ 述べてきたが、日本は海外に人を派遣すると、3年〜5年すると日本に戻すし、派遣者も現地に根づくというより本社を見て仕事をしているように見える。

◆ 人事・福利厚生は各国内に任せて、規模の利益や本社と各国のオフィスの円滑なコミュニケーションがとられていないように思う。

◆ 今後、グローバルな人事・福利厚生施策が必要になるだろう。

ストレス世界に例のない義務化

私は、日本の最近のトピックスとして「ストレスチェックの義務化」を発表した。

2015年12月から従業員50人以上の事業所にストレスチェックの実施が義務付けられる。調査によると、6割の労働者がストレスを感じ、ほとんどの大企業が精神疾患で休職している従業員を抱え、休職者の63%は精神疾患によるという数字もある。精神的な理由での労災の請求件数も増加している。

◆ ストレスチェックというのは、従業員に質問票を渡す。メンタルヘルスの重要性は欧米

社会保険 遠藤 忠彦

用除外制度があり、この2階部分は、同等の給付ができれば、企業年金で代替でき、加入しなくてもよいという制度である。

自動加入制度で、いったん全員加入する。2016年から予定されている制度改定により、公的年金は1階のみとなり分りやすくなる。同時に適用除外制度は廃止される。日本でも、

ウェストを測るそうだが、誰が行うのがあった。欧米の人には、強制的にウェストを測られるのが信じられないらしい。

◆ 会議の2日目、セッションの終了後に参加者全員で、夕食をとるためバ

スで30分ほどのパリスという町にある紀元1世紀のローマ時代の遺跡で、世界遺産になっているローマンバスを見学し、そのカフェで食事をした。

◆ この町の名が英語のBATH(風呂)の語源であるという。浴槽やマッサージルームなどがあり、まさに映画の「テルマエロマエ」の世界であった。2000年もの間、今もこんなと温泉が湧き出ていて驚いた。

◆ 述べてきたが、日本は海外に人を派遣すると、3年〜5年すると日本に戻すし、派遣者も現地に根づくというより本社を見て仕事をしているように見える。

◆ 人事・福利厚生は各国内に任せて、規模の利益や本社と各国のオフィスの円滑なコミュニケーションがとられていないように思う。

◆ 今後、グローバルな人事・福利厚生施策が必要になるだろう。

意外に投資教育に消極的な英国

ファイナンシャルプランナー(FP)は、個人の生活設計や資産運用のアドバイスを行う。

日本では一般的な運用相談に乗れるが、金融商品取引業者の登録をしなければ、個別の銘柄を推奨することはできない。金融機関に勤務していない独立FPは少ない。

英国では、むしろ投

税制を使って政府は国民に老後はほとんど年金で受け取るように強制してきた。2016年から国民のニーズの多様化に合わせて、一時金でも受けられるように制度改正が行われる予定である。今後FPの対象は富裕層主体から、さらに広がることを予想されている。

◆ これまで英国の印象を

英国訪問

企業福祉の国際会議とFP事情

英国では、むしろ投

税制を使って政府は国民に老後はほとんど年金で受け取るように強制してきた。2016年から国民のニーズの多様化に合わせて、一時金でも受けられるように制度改正が行われる予定である。今後FPの対象は富裕層主体から、さらに広がることを予想されている。

◆ これまで英国の印象を

◆ 述べてきたが、日本は海外に人を派遣すると、3年〜5年すると日本に戻すし、派遣者も現地に根づくというより本社を見て仕事をしているように見える。

◆ 人事・福利厚生は各国内に任せて、規模の利益や本社と各国のオフィスの円滑なコミュニケーションがとられていないように思う。